

第4章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

沿線の地域特性に関して、入手可能な最新の文献その他の資料により把握した結果を下記に示す。対象事業実施区域⁽¹⁾及びその周囲を含む周辺市町⁽²⁾は、岐阜県内で、中津川市、恵那市、瑞浪市、御嵩町、土岐市、可児市、多治見市の6市1町とした。

4-1 地域特性の概要

岐阜県は、本州のほぼ中央に位置し、海には面していないが、3,000m以上の山地から海面に近い平野まであり、「飛山濃水の地」といわれている。県の北部及び東部の大部分は山地で、南西部に濃尾平野の一部である美濃平野がある。広い山地は水量豊かな河川のかん養地であり、乗鞍岳、位山、大日ヶ岳等を結んだ山地を分水界として、長大な河川が日本海側と太平洋側に流れている。宮川と高原川が合流した神通川と庄川が日本海に注ぎ、太平洋へは長野県から発する木曾川に飛騨川が合流し、長良川、揖斐川の大河川とともに濃尾平野に集って伊勢湾に注いでいる。

県内総面積は、約10,621km²であり、このうち約81%が森林、約4%が宅地、約5%が農用地、その他（水面、道路等）約10%となっている。

岐阜県の気候は、地域差が著しく、南部（美濃地方）は温暖な気候、北部（飛騨地方）は寒冷な気候で積雪が多くなっている。岐阜地方気象台の観測によると、年平均気温は約16℃、月別には約4℃～約28℃で変化し、1月の気温が最も低く、8月の気温が最も高くなっている。年間降水量は、約1,880mmであり、国内の年平均降水量と同程度である。月別の降水量は7月が最も多く、次いで6月、9月、5月となっている。一方、降水量が最も少ないのは1月であり、次いで12月、11月、2月となっている。

人口は、平成22年10月現在、約2,081千人であり、前年と比較すると約0.3%減少している。市町別に見ると、多治見市が約113千人で最も多く、次いで可児市が約97千人、中津川市が約81千人となっている。

産業別の就業者数は、平成22年10月現在、第3次産業が最も多く約63.2%、第2次産業が約33.6%、第1次産業が約3.2%となっている。全国水準と比べると、岐阜県は第2次産業に特化した産業特性を有しており、第1次産業、第3次産業については、全国水準と比べて低い数値となっている。

岐阜県内には、中部山岳、白山の2つの国立公園、飛騨木曾川、揖斐関ヶ原養老の2つの国定公園のほか、恵那峡、胞山、裏木曾、土岐三国山等計15箇所の県立自然公園が存在している。また、自然環境保全法に基づく自然環境保全地域等の指定はないものの、岐阜県自然環境保全条例に基づき、16地域約2,957haの自然環境保全地域（うち、7地区約80haの野生動植物保護地区）、16地域約654haの緑地環境保全地域が指定されている。その他、16地区約2,690haの風致地区、4地区約86haの特別緑地保全地区が指定されている。

(1) 「対象事業実施区域」：本章のみ「対象事業実施区域」は、方法書と同様に設定して記載した。

(2) 「対象事業実施区域を含む周辺市町」：地域特性の調査対象範囲は方法書と同様とし、対象事業実施区域に掛かる市町のデータとした。